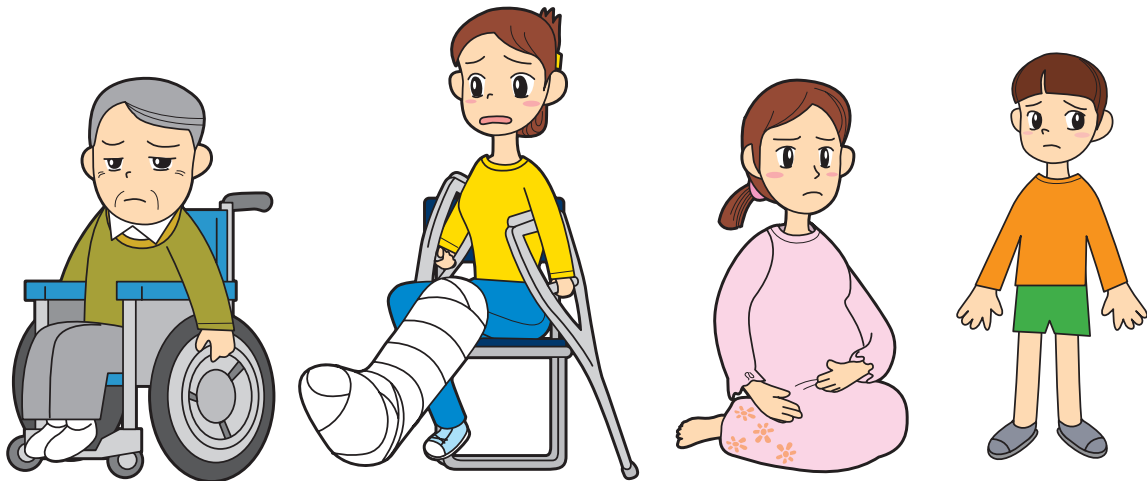


災害が発生すると、平常時でも様々な支援を必要とする方たちにとっては、安全な場所に避難することや避難先での生活を続けることなどに大きな困難が発生します。そのような方たちを「要配慮者」と呼んでいます。

災害が発生したときに、要配慮者に手を貸してあげられるのは、周りに住んでいる方たちです。日ごろからの見守りに加え、災害が発生したときには、要配慮者の手助けを心がけてください。



① 要配慮者には、次のような支援が必要になります。

● 高齢者

- ・情報を迅速かつ的確に伝える必要があります。
- ・避難誘導や、移動の支援が必要になります。

● 視覚、聴覚、音声・言語機能に障害のある方

- ・それぞれの障害に応じて、情報を的確に伝える必要があります。
- ・障害のある方には、避難を支援する必要があります。

具体的な対応

視覚に障害のある方への対応

- 行き先や方向などを伝えながら、誘導しましょう。
- 階段などの段差に気を配り、ゆっくり歩きましょう。

聴覚、音声・言語機能に障害のある方への対応

- 筆談や身振り手振りなどで、情報を伝えましょう。
- 口の動きで言葉を理解出来ることもあるので、大きく口を開けて話しましょう。

● 肢体に障害のある方

- ・移動の支援が必要になります。

● 内臓部に障害のある方

- ・障害の内容によっては、移動の支援が必要になります。
- ・医療機関への連絡などの支援が必要になります。

●知的、発達、精神に障害のある方

- ・避難を支援する必要があります。
- ・避難所では、障害の程度等により、周りの環境と遮断された状況が必要になります。

具体的な対応

○精神的な動揺を極力和らげてあげるように、安心できる言葉をかけましょう。

●妊婦、乳児のいる母親

- ・避難所では、防音や衛生面での心配りが必要になります。

●日本語がわからない外国人

- ・情報を的確に伝える必要があります。

②自主防災組織の要配慮者への対策

- 地区内のどこに要配慮者が住んでいるのかを、知っておきましょう。
- 日ごろからのコミュニケーションを大切にするとともに個別計画（要配慮者で自立避難できない人に対する情報伝達や避難支援の手順を定めたもの）をあらかじめ作成し、災害が発生したときには、要配慮者を地域で支えてあげられる体制を整えましょう。
- 防災訓練のときに、要配慮者の方にも積極的に参加してもらい、日ごろからどのような手助けが必要なのかを知っておきましょう。

③要配慮者も日ごろから次のようなことを心がけましょう！

- いざとなったときに、地域の方に手助けしてもらおう必要があるので、地域の活動等に出来る限り参加して、地域の方と良好な関係を築いておきましょう。
- 日ごろから、自分の身は自分で守れるように、努力しましょう。

CHECK!

知っていますか？

聴覚に障害のある方は、外見からは障害のあることが分かりません。そこで、黄色いハンカチを使って、自分が聴覚障害であり、手助けを必要としている事をアピールすることがあります。

CHECK!

外国人は？

災害が発生すれば、日本人も外国人も同じように被災者となりますが、特に外国人は言葉の問題から要配慮者となってしまうこともあります。

そのためには、日ごろからお互いにコミュニケーションを大切に、防災訓練などに外国人も積極的に参加し、地震災害の恐ろしさを伝えることも重要です。災害時には、お互いに協力し合いましょう。